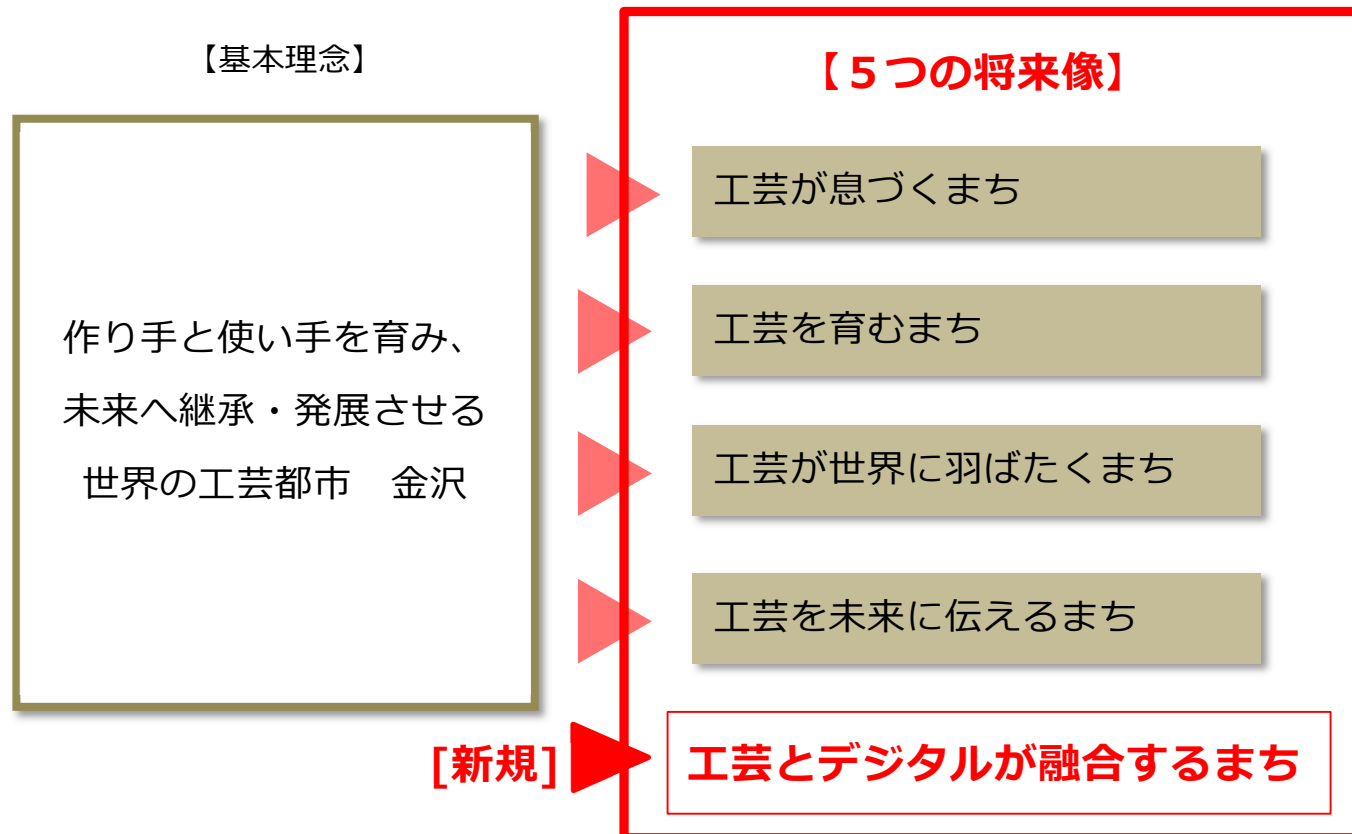


金沢KOGEIアクションプラン改定にかかる骨子案

1. 改定の目的

新型コロナウイルス感染症による経済情勢の変化や北陸新幹線の敦賀延伸など、市政を取り巻く環境の変化や、「新たな都市像」の議論を踏まえ、2020年3月に策定した「金沢KOGEIアクションプラン」(2020年度～2029年度)の中間見直しを行い必要な改定を行う。

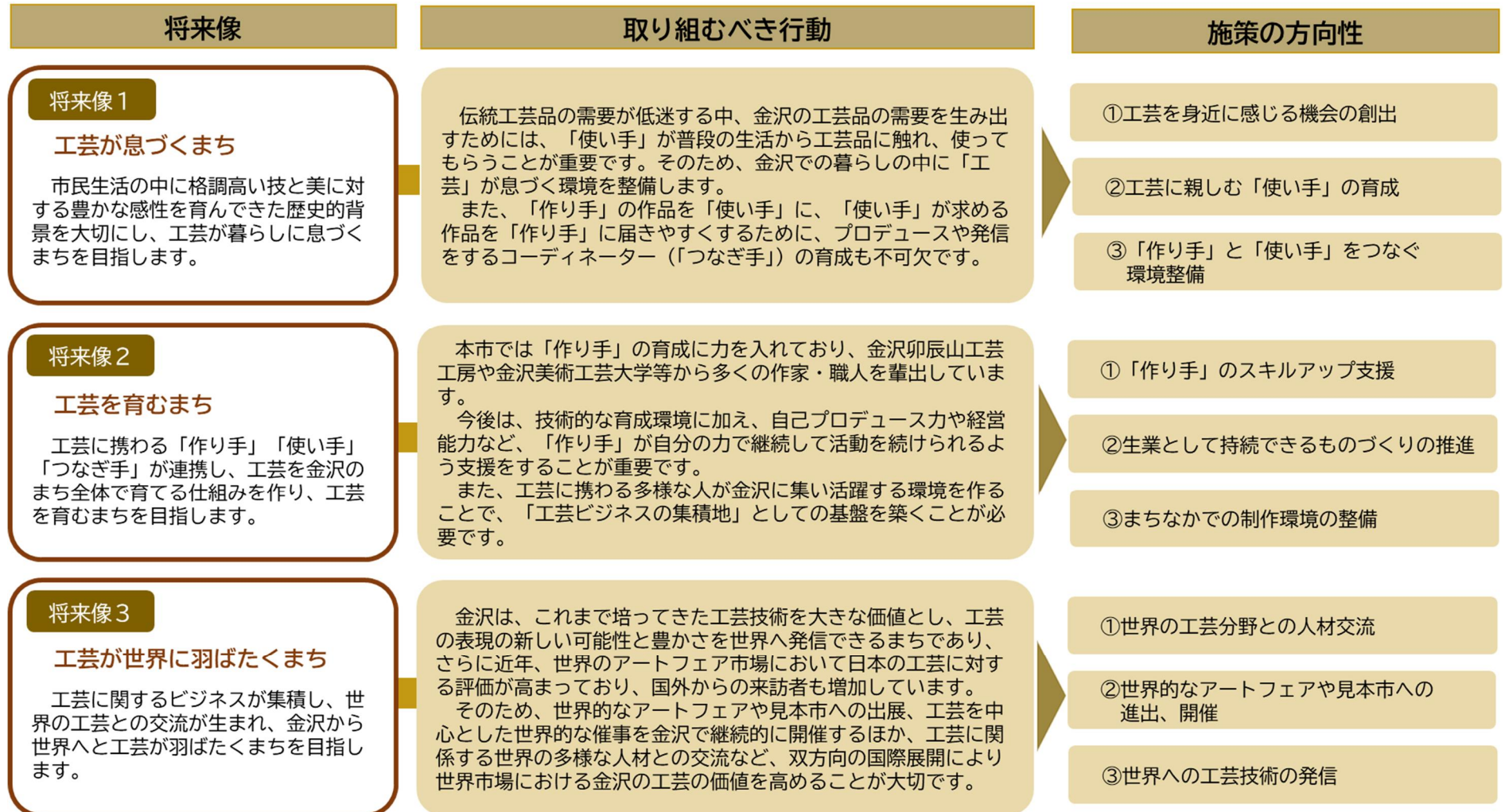
2. 基本理念と将来像



3. 計画の期間

2020年度から2029年度の10年間
(3年ごとに達成状況を確認し、必要に応じて計画の見直しを行うものとする。)

4. 改定後のプランの体系



将来像

取り組むべき行動

施策の方向性

将来像4

工芸を未来に伝えるまち

何世代にも渡り受け継がれてきた技術を継承するとともに革新を加えることで、未来に向けて新しい工芸を創造するまちを目指します。

金沢がこれからも世界に誇る工芸のまちであるためには、長年育んできた工芸技術等を後世に継承することが大切です。高度な技術を持つ「作り手」から若い「作り手」へ技術を伝えることに加え、先進的な技術を駆使し、職人技術を記録し保存することが必要です。

また、これらのアーカイブをもとに、既成概念にとらわれない革新的な手法も取り入れ、未来に向けてさらに金沢の工芸の技術を高めることが大切です。

さらに、異業種・異分野のコラボレーションを促すことで、工芸に関わる新産業を創出し、工芸の新しい需要を生み出す必要があります。

①制作技術等の保存と継承の推進

②革新的なものづくりの推進

将来像5

新規

工芸とデジタルが融合するまち

リアルとデジタルのそれぞれの特徴や良さを活かして、工芸品の需要拡大や若手作家等の育成につなげている、工芸とデジタルが融合するまちを目指します。

金沢の工芸が少子高齢・人口減少社会においても活力を維持するためには、若い世代に魅力を周知することが重要です。

そのためには、コロナ禍を境に急速に進展したデジタル技術の活用は工芸の世界においても有効な手段です。

新たな需要の創出や後継者・担い手不足の解消に向けて、効果的な情報発信の強化や既存の枠組みにとらわれない時代のニーズに呼応した工芸の新たな価値を生み出すことが必要です。

①新しい時代に対応した情報発信の強化

②デジタル技術を活用した工芸の価値向上